

橋梁技術発表会 及び 講演会

ライブ配信予定!!

開催概要

日時	令和7年10月17日(金) 13:00~16:10
会場	ドーンセンター 7Fホール 大阪市中央区大手前1-3-49
申込	https://www.jasbc.or.jp/ ※申込はWebサイトのみです。
申込受付期間	7月22日~10月7日
継続教育	会場参加はCPDS対象 Web参加は対象外
資料	会場では配布いたしません。必要に応じて Webサイトより出力し持参願います。 10月10日掲載予定

《開催日一覧》		
地区	開催日	申込締切
東京地区	10/03(金)	09/23(火)
大阪地区	10/17(金)	10/07(火)
北海道地区	10/24(金)	10/14(火)
中部地区	11/07(金)	10/28(火)
九州地区	11/21(金)	11/11(火)
東北地区	12/04(木)	11/25(火)

(6地区開催ですが発表テーマは異なります)



開会 13:00~13:05 開会の辞 (一社)日本橋梁建設協会

第一部 技術発表
13:05~13:40 技術発表(1) 架設小委員会①
高速道路橋を2週間の通行止めで架け替え
~首都高 高速大師橋 約300m区間のリニューアル工事~

13:40~14:15 技術発表(2) 床版小委員会
鋼橋床版の劣化と保全について
~ コンクリート系床版の点検と補修・補強の留意点 ~

14:15~14:20 休憩

14:20~14:55 技術発表(3) 海外事業委員会②
バングラデシュ・ジャムナ鉄道橋 上部工工事報告
~ 大河ジャムナ川に架かるアジア最大級の連続トラス鉄道橋 ~

14:55~15:05 休憩

第二部 特別講演 15:05~16:05 (調整中) 国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川
国道事務所 計画課長 石山 良太

閉会 16:05~16:10 閉会の辞 橋梁技術発表会 実行小委員会
委員長 本田 政樹

発表概要

多摩川にかかる首都高速1号線(高速大師橋)は、1968年11月の開通から50年以上が経過し、1日約8万台の自動車交通による過酷な使用状況などから、橋梁全体に1200か所以上の疲労き裂が発生していました。構造物の長期的な安全性を確保する観点から疲労損傷が発生しにくく、長期の耐久性と維持管理性を備えた構造の橋梁へ更新(造り替え)を行うこととなりました。本事業では、交通への影響のほか、一級河川・多摩川や近隣住居に対する影響低減が求められたため、仮設の迂回路を設けず、既設橋の下流側に新設橋を架設し、壁高欄・基層舗装を施工した後、既設橋と新設橋を上流側にスライドさせる一括横取り工法を採用し、約2週間の通行止め期間で重さ約4,500t(附属物を含む)、長さ292mの橋梁を一挙に架け替え、その後、表層舗装・区画線等を施工し予定通り供用を開始しました。本発表では新設橋の架設、一括横取り、交通解放まで一連の作業について報告します。

鋼橋のコンクリート系床版は、厳しい環境による経年的な材料劣化や輪荷重による繰り返し作用など構造的な要因で、損傷を受けていることがわかっております。このような床版の損傷は、5年に1度の近接目視による定期点検で変状が明らかになりつつあります。これらの背景より、鋼橋におけるコンクリート系床版の種々の点検方法から損傷評価に関する手法を示し、補修・補強工法について、事例を示すとともに、その留意点について説明します。

ジャムナ鉄道橋建設工事プロジェクトは、バングラデシュ人民共和国の経済成長に伴う将来の鉄道輸送需要への対応等を目的にJICA有償資金援助により実施されたプロジェクトです。本プロジェクトは、橋梁上・下部工、駅舎、盛土工、護岸工事等の多工種が含まれ、プロジェクト総延長12.5kmはジャムナ川中央部を境に東西2工区に分割発注されました。

その中で主橋梁に位置づけられるジャムナ鉄道橋は、国土中央部を南北に流れる大河ジャムナ川の渡河部に計画された延長4.8km、鋼重約41,000トンの連続トラス鉄道橋で、東工区2.55km、西工区2.25kmを担当しました。工事期間中には、新型コロナパンデミック、ミャンマー政変、ロシアのウクライナ侵襲、バングラデシュ政変等の想定外イベントが工事進行に大きな影響を及ぼしましたが、2025年3月に上下線を開通することが出来ました。

本発表では、ジャムナ鉄道橋の上部工工事の製作、輸送、現地架設に関する一連の活動を報告します。

主催: